

多子世帯無償化延期についての陳情審査速記録

(2020年12月14日健康福祉員会陳情審査)

○西委員 堺創志会の西でございます。お疲れさまです。

先ほどの、陳情者の方のお話を聞きながら、皆さんの顔をずっと見てました。私は、青少年指導員として、皆さんと、これ議員としてだけじゃなくて、接しさせていただいたり、また一生活者としても接しさせていただきました。そして、もう議員になっても、長らくか、短くか分かりませんが、まあ10年近くなる中で、いろんなところで接しさせていただいた皆さんが、あのお話を聞きながら、思わずうなずきそうになってるん違うか、言うことはよく分かる、しみる、そう考えてるん違うかと思ひながら、皆さんの顔をずっと見てました。さすがに皆さん、組織の人で、簡単にはうなずいてくださいませんけども、でも皆さん、本当に心の中ではうなずいていたと、今も信じていたい。まず、そこからスタートをしたい、そう思っています。最大のポイントはさっき市長に申し上げましたが、やはり先ほどの陳情者のお話を聞きながらでもそうですが、前回の議会で市長は、今本当に大事なサービスをやっているんで、それを維持するために、非常に残念だけれども、新しくやるこの事業をなくす、そのような趣旨のことをおっしゃいました。そこが認識がずれてるんです。新しい事業をつけるんじゃなくな、もうここまでずっと発表してきたんですから、既存の事業と実質、認識は同じなんだと、そこからスタートしてほしい、私はそう思っています。さて、改めてお聞きをしたいのですが、聞いても無駄なことも分かってますけど、改めてお聞きをしたい。撤回することはできませんか。

○長尾幼保推進課長 令和3年度から予定しておりました市独自の第2子のゼロから2歳児の保育料無償化につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響等による市の財政状況を踏まえて、今般、やむなく実施を延期したものであり、撤回は困難な状況でございます。以上です。

○西委員 撤回ができないということですが、代替、先ほど森田議員の議論もありましたけれども、代替の子育て支援策、実施できないんですか。できそうですか、お答えください。

○長尾幼保推進課長 先ほどの御答弁と同じ内容になりますが、子育て世帯への支援につきましては、重要な課題であることから、前回の議会での議論なども踏まえ、極めて厳しい財政状況の中ではありますが、代替施策等について、実施の可否を含めて慎重に検討していきたいと、このように考えております。以上です。

○西委員 慎重に検討していく、そこまで進んだことも第一歩かなと思ひながら議論をさせていただきたいと思ひますが、改めて、この第2子、ゼロから2歳児の保育料無償化の延期

について、対象者数と年間の所要額をお示してください。

○長尾幼保推進課長 令和3年度に予定しておりました市独自の第2子、ゼロから2歳児の保育料無償化の対象者といたしましては、約3,000人、所要額といたしましては、年間約8億円を見込んでおりました。以上です。

○西委員 まあ、約8億円、この延期の理由ですね、ずっと一貫して説明をされてるのは、市の財政状況が原因です。御説明をされています。令和3年予算編成方針では、コロナウイルス等々の影響も含めて135億円の収支不足が見込まれて、令和3年度当初予算においては、約40億円の見直しが必要、ここまでは理解ができるんです。まあ、こういう状況である。細かいところはあるんですが、ここまでは理解できる。その結果、予算編成方針の中では、一般財源で10%削減をする、こういうふうな方針が出ています。これが財政状況及びコロナで大変だから、全庁に対して10%削減をしてください。このことが波及をしている。そうであれば、約10%削減しなきゃいけないんだということであれば、非常に苦渋の決断で、市民の皆さんも残念な思いをされると思いますけれども、我々議員としても説明責任が果たしていけることもあるかもしれません。でも、皆さん、なぜか、これだけ特出しをして8億円全て10%どころか100%削減して延期、どうしても我々は説明責任が果たせません。このことについてどのように考えているかお示してください。

○長尾幼保推進課長 これまで議会でも様々な議論を得まして、実施予定として市民の皆様にも周知し、期待されていた子育て政策であるということは十分認識しております。ただ現在、極めて厳しい財政状況を踏まえ、延期することとなったのもやむを得ないと認識しております。以上です。

○西委員 この答弁、かみ合ってると思われませんか。厳しい財政状況を踏まえると延期するもの。だから、厳しい状況ってこの10%削除すれば厳しい状況へまはずは対応していくことになるんじゃないですか。部長にお聞きします。新たな事務事業というふうに思っておられません。もう実質的な既存で存在をしてくる、予定をされている、実質的にはもう予定をされている、そういうものだと思いますか。

○井上子育て支援部長 これまで経過としましては、令和3年度4月から実施する予定であったということは認識しております。新しい事業であったかどうかということでございますけれども、継続して実施する予定ではありましたけれども、あちらの表に書かれておる一般財源10%削減というのは、令和2年度当初予算の数字から10%ということでございます。令和2年度の予算の金額には申し訳ないですけども含まれていなかったという認識でございます。以上でございます。

○西委員 まあそりゃ含まれてないんですよね。ただ考え方としてお聞きをしたかったんですが、そういう答弁になるだろうということなんだと思います。実は、皆さんも財政当局と議論をされているというところなので、本当に心苦しいんですが、しかし立場上、議論をしていただかないといけないので、よろしくお願ひしたいと思いますが、仮に一般財源10%と同様に、10%削減した場合の約8,000万の削減額、対象予定者が一律にひとしく負担をするとした場合は、月額保育料はどの程度ですか。

○長尾幼保推進課長 あくまでも過程ということになりますが、約8,000万円を対象予定者の約3,000人が一律にひとしく負担することを想定した場合、大まかな試算にはなりますが、月額保育料が約2,300円程度となります。以上です。

○西委員 2,300円を負担すれば、ほかの事務事業と同様に1割削減の予算が確保できると。本当にこれでいいんでしょうか。計算上、お聞きをしておきたいんですが、仮に月額保育料が1万円以上の対象予定者に一律月額1万円をひとしく負担することを求めた場合、年間ではどの程度の金額となり、市の費用負担は幾らになるんでしょうか。

○長尾幼保推進課長 こちらのほうもあくまでも過程ということになりますが、月額保育料が1万円以上の対象予定者に一律に月額1万円をひとしく負担することを求めることを想定した場合、大まかな試算ではございますが、年間約3.5億円程度となり、市の費用負担は、約4.5億円となります。以上です。

○西委員 つまり、3.5億円削減されますから、4割以上の予算削減になる。このそれぞれは、皆さんで細かく議論していただけたらとは思いますが、こういう議論をしてほしいんです。コロナで本当に大変だ。なかなか全てのことがやれるわけではない。それは分かります。でも、なぜ100%削減になるのか。そこをもう一度考え直してほしいと思っています。ぜひ部長か、局長にお答えいただきたいんですが、現課の皆さんは日々電話もかかってきて、非常にしんどい思いもされているかと思えますから、部長や局長にお聞きをしたいんですが、私が2007年に議員になったときに、池尻委員長もその場に一緒におられたわけですが、当時のベテランの5期やら7期やらのベテランの議員さん、最近、こういうことを言う議員さんは少なくなっただけですけど、ベテランの議員さんは、おまえらはなど、こういう言葉遣いですが、市民のあれやれ、これやれ、意見・要望、そればかり言うことだけが仕事ではないんだぞ。市政のいろんな決まったこと、不本意でも決定をしたこと、堺市政がどのようにやっているか、どういうことでこういうことになっているか。それを説明を担うことも議員の仕事やねんぞ。好きなことだけ言うてたら、市民の声やからといって、何でもかんでも言えばいいだけが仕事ではないぞというふうにベテランの議員

さんに言われたのを私は今でも心の中に持っています。そのつもりで本当に微力かもしれませんが、ここにいらっしゃる皆さんとも一緒に市民の皆さんへの説明を担ってきたつもりです。それは御理解いただけると思います。でも、ここのアンケートの書いてあることを私説明できないんです。人生が変わってしまった。このことで家族計画を考えていた、こういう皆さんに私、どう回答していいかずっと悩んでるんですけど、回答できないんです。こんなこと初めてです。こんな質問したの、平場では聞いたことあるかもしれませんが、質問したの初めてです。私の代わりにこのことに対して答えてもらえませんか。無償化の情報を知った上で2子を出産したので延期は本当にびっくりしました。それを理由に時期を考えたので困りました。こう言われたら、私どう答えたらいいんですか。

○井上子育て支援部長 様々なアンケートでの御意見、私も拝見させていただいております。本当に心苦しく、期待されていた市民の皆様に対しては本当に申し訳なく思っております。答えとして、果たしてきっちりと私どもがその答えになるかどうか分かりませんが、先ほども局長も課長も答弁しておりましたけれども、こうした意見を真摯に受け止めていきたい。そして極めて厳しい財政状況の中ではございますけれども、代替施策等について、実施の可否を含めて慎重に検討していきたいと考えております。今、我々が答えられるのはここまででございます。本当に申し訳ございません。以上です。

○西委員 そんな答えで私たち説明したら、どなられること多々ありますし、泣かれることもと思います。局長、じゃあこれどうですか。2人目の入所待ち中です。来年度には、ゼロ歳児と2歳児クラスの子がいるため、無償化の延期は非常に困ります。上の子を保育園に入れる際から、無償化に期待して家族計画を立てています。仕事復帰しなければよかったとも考えています。これどう答えたらいいんですか。

○岡崎子ども青少年局長 今、部長お答えさしてもらいましたように、いろいろ御意見いただいていることは御承知してございます。それに対して、きちとしたお答えになるというものはちょっと持ち合わせておりませんが、ただ市の財政というのが基本的に来年度予算が立たなければどうしようもないというふうな観点にも僕ら立っておりまして、だから切り捨てるとかそういうわけじゃないんですけれども、そういった中で、今後、市の財政状況がどうなっていくかを踏まえて、誠に申し訳ないんですけれども、第2子の無償化につきましては、延期させていただいたということで御理解いただきたいと思っております。以上です。

○池尻委員長 西委員の質疑の途中ではありますが、この際お諮りいたします。本日の会議時間は、議事の都合によりあらかじめこれを延長したいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声起こる)

御異議なしと認めます。よって、本日の会議時間は延長することに決定いたしました。質疑を継続いたします。

○西委員 局長、いろいろと個人的にも親しくさせていただいているので、そういうのを言うのは心苦しいんですけど、今で私たちがそのまま市民の皆さんに説明できると本当に思われていますか。財政が理由にされるのは先ほど申し上げたように、10%までですよ。この事業を含めたら、10%で済まなくなるのであれば、十数%、2割、3割、これは細かく計算しないと分からないですが、少なくとも100%なくすことを説明することにさっきの財政では全然説明にならないんです。それを私たちが財政が理由でこれを止めます。市民の皆さんに昔ベテランの議員さん、言われた顔、今でも覚えていますけど、おまえらは、説明せなあかんねんで、しんどくたって。市役所と一緒にあって市民の皆さんにこういう状況だから、やらなきゃいけないんです、説明せなあかんねんで。説明しようと思って、本当にそんな説明で納得してもらえる、納得してもらえなくたって、渋々でも理解してもらえる、本当にそう思われますか。

○岡崎子ども青少年局長 御期待をいただいていた市民の皆様に対しては、それぞれの御事情があると思いますし、それぞれの思いがあって、予定もさせていただこうし、計画も立てられていたと思います。そういう個々のことについて、きちんとお答えできるということはちょっと申し訳ないんですけども、ただちょっと誤解を招いたらちょっと非常に困るんですけども、私どもいわゆる子育て局の子ども青少年局の予算として、いろいろな子育て支援を行う中で、今既存の、既存という言い方がちょっとひっかかるかも分かりませんが、既存の事業がございまして。それについても切り込んでいかなければいけないということがございまして。この第2子のゼロ歳から2歳の無償化につきましては、予定はして、僕らはやるつもりやあって、考えて、公表もさせていただいたんですけども、現実、財源がないという、いわゆるお金がどこかから取って来ないといけないという中で、全体の市の財政のこともありますし、子ども青少年局の子育て支援全体を考えたときに本当にいろいろ悩みましたけれども、どうしていこうかという思いもありましたけれども、9月の申込みまでという期限がございまして、そこで判断させていただいたということでございます。以上です。

○西委員 ごめんなさい、かみ合っているかどうかちょっと不安になるんですが、財源の問題は分かっているんです。だから1割、もしくはこの8億を含めた分で1割か2割、そこまでやったら説明責任ができると申し上げているんです。その先は説明責任ができませんけど、それでも財源、財源とおっしゃるんですか。

○岡崎子ども青少年局長 西委員さんがおっしゃっているのは、確かによく分かるんですけ

れども、財源ということは既存の10%と先ほどお示しさせて、部長も説明させていただきましたように、その中に入っているか、入っていないかでございますけれども、私ども、第2子の無償化については、入っていないということで10%の対象ではないですよ。そういう意味では、ある意味、新規、新しい新規拡充事業と、事実上はやってないということで、新規拡充事業という話になりますので、それがやらなくていいのかという意味では、やらなくていいとは思ってないんですけれども、その財源がないという意味で、誠に申し訳ないですけれども、延期ということで話をさせていただいています。以上です。

○西委員 本当に残念なんですね。この今、局長がおっしゃったのが、それは令和2年度当初予算に入っていないですよ。だけど、予算総額から考えてくださいと。予算総額から義務的経費を除いて約1割ぐらい削減をしなければいけないということを今、堺の財政状況下ではそういう状況である。ここまでは我々は説明できるんです。でも、100%なくしてしまったら、これは財政状況だけでは説明ができないと私は思います。何度議論をしても、議会で本音を言うのもなんですが、局長もいろいろと折衝してくださっていると信じていますから、いろんな代替案を考えてくれていると思います。その中で、この今の議論が本当に心底局長は信じてしゃべってらっしゃると思いたくない。局の予算にこの第2子無償化の分を含めて総体で1割を減らすことがどうしても仕方ないんだったら、そこまで。それ以上は無理やという議論をちゃんと財政当局と今答弁をしてと言っても、答えられないと思いますが、議論をしてほしいんです。財政状況から考えてしんどいのに、しんどいのに何でもかんでもやれと言っているわけではありません。全体のバランスでこれだけを出しせずに、全体と一緒にこの話を議論してほしい。それが代替策の議論だと私は信じています。この中にいっぱい私が答えられないアンケートの内容があります。こんなこと本当に初めてなんです。何とかかんとか皆さんと一緒に歯を食いしばってこういう状況で仕方がないんです。何とか理解をしてください、市民の皆さんに僕何回もやってきました。でも、この中に本当に答えられないものが何個もあるんです。皆さんも分かってくださっていると信じています。立場上、持ち場、言えないことはいっぱいある。でも、心の中でこのアンケートに書いてあるような気持ち、人生設計が変わってしまう、もしくはもうこれを前提に変えてしまっていた、もしくはこうしていた。その予定が根っこから崩れようとしている。このことに対して、分かってくれない皆さんじゃないと思うんです。もう一度、財政当局と来年に向けて全額は無理でも何らかの代替措置をしっかりとやる。その議論をもう一度ちゃんとちゃんとしてくださることをお願いを申し上げて、私の質問を終わります。ありがとうございました。